

総合計画審査特別委員会
重点プロジェクト分科会記録

令和7年11月10日

【開催日】 令和7年11月10日（月）

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午前9時～午前10時43分

【出席委員】

分科会長	藤岡修美	副分科会長	恒松恵子
委員	穂本真一	委員	奥良秀
委員	中岡英二	委員	藤谷圭子
委員	宮本政志	委員	山田伸幸

【欠席委員】

委員	中島好人		
----	------	--	--

【委員外出席議員等】

副議長	大井淳一朗		
-----	-------	--	--

【執行部出席者】

副市長	古川博三	企画部長	和西禎行
企画部次長兼企画課長	河田圭司	企画課主幹	大坪政通
企画課政策調整係長	木藤拓也		

【事務局出席者】

局長	石田隆	局次長	中村潤之介
----	-----	-----	-------

【審査内容】

1 重点プロジェクト等について

午前9時 開会

藤岡修美分科会長 おはようございます。それでは、総合計画審査特別委員会重点プロジェクト分科会を開始します。中島委員は所用のため欠席届が出ております。それでは、議案第87号第二次山陽小野田市総合計画に係る後期基本計画の策定について、重点プロジェクト分科会担当部分の審査を行います。あらかじめ委員の皆様には、重点プロジェクトを熟読

されていると思いますが、総合計画全般の方向性を決める重点プロジェクトでありますので、その辺りの意味を踏まえて質疑をお願いしたいと思います。最初に私からです。「W e l l - b e i n g」から「W i l l - B e i n g」へと市長が方向性を出されましたが、その辺りはどのように判断されているのか。

河田企画部次長兼企画課長 お手元の素案の2ページに、市長がW e l l - b e i n g についての思いを記載しております。こちらにも記載をされておるところですが、これまで充足した状態を表しますW e l l - b e i n g といった言葉は使われてきておるところです。これを進化させるという形ではないですが、W i l l - B e i n g というような表現が使われているところでは、これまでの協創によるまちづくりの流れから来るもので、協創によるまちづくりは、市民の皆様方がまちづくりに積極的に参加していただくというようなところがあります。RMOなどが具体的な取組として表れていますけれども、そうした流れを表す言葉として、このたび用いられたということです。自分の意思を持って状況をよりよくしていく、そこをW i l l - B e i n g という言葉で用いられているということです。この言葉ですが、なかなか聞き慣れないというような方も多くいらっしゃるかと思いますけれども、実は人材育成の中でコーチングのような分野があって、対象となる方にお声掛けして励ましていき、能力を伸ばしていくという考え方があります。そのコーチングの分野でも、本人の資質向上に当たって、一方的に教えるとか待ちとかといった姿勢ではなくて、本人に目標を持たせて自ら伸ばしていこうといった考え方でW i l l - B e i n g は使われていますので、御紹介させていただければと思います。説明は以上です。

藤岡修美分科会長 それでは今回の後期基本計画では、W i l l - B e i n g の思想が反映されて、だから受け身じゃなくて能動的な計画と理解していいですか。

河田企画部次長兼企画課長 先ほどもちょっと御説明させていただきましたが、協創によるまちづくりをより深めていくといった考え方があると御理解いただければと思います。

中岡英二委員 ちょうど2ページの中段ぐらいに、「人口減少対策は講じつつも、いかに持続可能なまちをつくるか」という文言があります。前期、中期でも、どのように人口が減少していくかという数字は出されたと思います。合併当時は6万8,000人ぐらいおって、今5万8,000人ぐらいになる予定となっておりますが、そうしたことは予想されていたのでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長 このたびは改訂しませんが、総合計画の中期の中の基本構想の中で、将来人口の見通しを掲げさせていただいております。この2ページにある人口減少対策は講じつつもという表現ですが、10年前に国が地方創生を掲げて、人口減少を抑制していくようにという取組を行ってまいりました。本市でも、それに基づきまして総合戦略を策定しました。これは議会からも政策提言を頂いて策定したものですけれども、今年になりまして、国も地方創生2.0というような考え方を示してまいりまして、この人口減少をまずは受け止めていくというように方針を転換しました。やはり、東京圏から地方に人口を増やすといいましても、国の中でのパイの奪い合いになるといった考え方もありますので、これからは人口が減っていくことを前提として、まずはそれを受け止めて、その上でまちづくりの在り方を考えていく必要があるというところです。移住定住もありますけれども、交流人口という考え方も国が示してきておりまして、そこが本市でいいますスマイルプランナーという形であって、市外の方にも本市のファンになっていただいて関係人口を構築していくというような考え方が込められております。

穂本真一委員 先ほど言われたように42ページの令和11年度の目標人口が5万8,000人であろうという数字で、後期も進んでいくっていうこ

とでいいんでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長 第二次総合計画後期基本計画におきましては、この数値でと考えております。

中岡英二委員 こうした総合計画を策定する上で、今回は新型コロナウイルス感染症の影響を織り込んでおられました。現在の物価高騰は総合計画に織り込まれているのでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長 近年の人件費の高騰、それから物価高の経済情勢があります。もちろんこうした経済情勢を見通した上で、前期、中期、後期と4年ごとの計画としております。物価高というように具体的にそういう表現は入ってきておりませんが、当然、それぞれの施策を進めていく中で、そういった対策を行っていくということで考えております。

山田伸幸委員 総合計画というのは、まちづくりをどう進めていこうかということはある程度念頭に置いた上で、個別の施策に入っていくんですけど、山陽小野田市のまちの在り方という一番大きなものが、この中では見えません。人口減少が進んでいろいろな厳しい条件も踏まえた上で、協創によるまちづくりの行き着く先をどう捉えたらいいんでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長 第二次総合計画の策定当初からということで、まさに委員のおっしゃったようなお話ですけれども、この協創によるまちづくりの行き着く先です。将来の理想像と申しますか、将来都市像というところにつながろうかと思えます。協創によるまちづくりというところは、従来、戦後の高度成長期におきましては、行政がある程度一方的にと言うと言い方が変なんですけれども、全体的にこのように進めていったほうがいいだろうというような時代ももちろんありました。ですが、高度成長期を過ぎまして、これからの時代は、やはり価値観が多様化、住民ニーズが多様化しているところもありますので、市民の皆様にもまち

づくりに積極的に関わっていただく必要があると考えておりますし、また、そういった多様化するニーズの全てを行政だけで充足することができないという中で、地域のことには地域の皆様方に主体的に取り組んでいただいて、よくしていただくという、つまり協創によるまちづくりを進めていきたいという考え方があります。

山田伸幸委員 今の説明は進め方ということで、どういったまちをつくるのかというのは、その中で出来上がっていくものだとということによろしいんですか。

和西企画部長 先ほど来やり取りさせていただいておりますが、まずは人口減少を受け止めなきゃいけない状況に来ているということです。人口が減少してまちの活力が失われてはいけないという観点に立ったときに、やはりまちづくりを多様な方々に担っていただく協創によるまちづくりという考え方が生まれてくるものです。ですから、持続可能なまちをつくるに当たって、人口減少が資源制約になることなく、それをリカバリーしていく、まちをさらにもっとプラスに持っていくためには、多様な方々のお力を得て笑顔あふれるまちにしていくということで協創によるまちづくり、行き着く先はそういうことになるかと思えます。ですので、中期で「協創によるまちづくり」というのを基本構想で掲げましたが、実はそれを表す言葉として、それからさらに、皆様に後期で進化という言葉で二重の意味で使っております。そういう形を取りたいということでこの2ページをつくらせていただいております。協創によるまちづくりの行き着く先というのは、持続可能なまちづくりをすることに変わりないということはお伝えしたいと思えます。

山田伸幸委員 人口減少は受け止めていくんですけど、このまちの中だけで人口減少が食い止められるかという問題もあるんですね。やはりそのためには流出を食い止めていく、あるいは、今の中で生活環境の豊かさによって安心して住み続けられるまちでなければいけないということな

んですけど、そういったことも含まれた今の発言だったということでしょうでしょうか。

和西企画部長 2 ページにもありますように、人口減少対策を講じつつというところでは、全く対策を取らないというわけではありませんが、やはり国でも地方創生の考え方が10年たって変わってきていると。人口減少対策を講じましょうということだけじゃなくて、人口減少対策を講じつつも人口減少を受け止めた上で考えていきたいと思いますということが地方創生2.0にも書かれております。ちなみに書かれている箇所としましては、地域住民の減少に伴う生活サービス利用者の縮小、地域産業を支える働き手の慢性的な不足といった現場が直面する現実の変化に目を向ける姿勢が不十分であったのではないかと。すなわち人口減少の中でも機能し得る地域社会や産業構造の再構築と、それを可能にする制度設計に向けた本格的な議論や取組が後回しにされたのではないかと。いうところまで踏み込んで、国が地方創生2.0というのを今年の6月に閣議決定しております。こういう流れを踏まえた上で、今回の後期の基本計画の策定に入ったということです。

宮本政志委員 今、和西部長がおっしゃったこと、さっき河田次長がおっしゃったことはよく分かるんですけど、委員会と分科会なんで一問一答でまず一つお聞きしたいのが、先ほど河田次長の答弁の中で、行政がずっと引っ張ってきた時代から市民参画ということがありました。これは自治基本条例、今も手元にあるけど、第2章の市民の権利というところでうたってあって、前期と中期はその整合性を取ってきたけど、その辺りをこの後期基本計画にどのように結びつけたか。詳細はいいので、大局的に方向性を知りたい。自治基本条例との整合性をね。

河田企画部次長兼企画課長 全体の概要説明のときにも少しお話しさせていただきましたけれども、このたびの後期の計画は、中期からの継続路線ということです。第二次総合計画を策定するときもそうですが、自治基本

条例の考えをもちろん考えておきまして、その流れは後期においても継承しているとお考えいただければと思います。

宮本政志委員 そうね。また、それぞれの分科会の際にそのように言われるだろうと思っていたけど、自治基本条例とどうなかなっていうところは、また分科会でお聞きしようと思っています。二つ目が、さっき和西部長がおっしゃったことで、地方創生2.0の前、前期ではあまり感じなかったけど、中期のときに2040問題があって、最近では2050も出てきています。先ほどから人口減少とかまちづくりとか将来都市像とかを言われるんだけど、その根本的なものは、恐らく中期のときは2040を前提に和西部長も当時答弁していました。この後期基本計画も読んでいくと、恐らくその問題の関連性を位置づけとってような気がするんだけど、2040問題を前提としたところは外れたんかな。

和西企画部長 2040問題につきましては、中期の基本構想を書き換える段階で、やはり協創によるまちづくりという考え方のベースにはあるということで御説明をさせていただいたところでございます。今、お話しさせていただいたとおり、2040問題がベースとして横たわっているのは間違いないことでして、中期のときに協創によるまちづくりを掲げさせていただいて、後期も引き続き進めていく中で、進化と書いておりますけれど、そういった中で今度はWill-Beingという言葉でさらに深めていきたい、進めていきたいという思いは変わらずあります。やはり根底には、団塊世代ジュニアが高齢者となる2040という一番その日本の分水嶺と言われるところについては、意識しながら、これからのまちづくりを進めていかなきゃいけないと考えております。

宮本政志委員 そうすると、2040は教育分野ほか、いろいろなところで問題があって、私もかなり読んでみたんだけど、やっぱり後期基本計画も方向性としては2040を前提にして、そうするとこの今の2025年から後期基本計画が始まってっていうのをどんどん逆算して、このよう

にして2040を解決していきましょう。その方向性というのは、中期のときと変わってないのかな。細かいところというか分科会に関係するところは分科会で聞こうと思っているけど、方向性をぜひもう少し詳しくお聞きしたい。

和西企画部長 4年前に御審議いただくときの2040問題というのは、総務省の地方制度調査会が出したものでして、世の中が2040年に向けて、もう劇的に変わっていくことを捉えましょう。ましてやコロナ禍の真っ最中でしたので、そういう総務省の地方制度調査会が発表したものについて、やはりベースに置きました。そのときは地方制度調査会レベルでの答申を尊重したというのがあります。流れは変わっていないんですけど、今回は国が地方創生2.0ということで大きな捉え方をしたという流れを酌んでやっている。恐らく地方創生2.0も地方制度調査会の2040問題というの尊重しつつ、そういうものをつくり上げていったということは読み取れますので、それを受けている本市の今回の後期計画も、やはりそのような流れに沿っていると御理解いただければと思います。

山田伸幸委員 今、人口減少が市民の中でなかなか認識されていないんじゃないかなと感じざるを得ないです。市が人口減少を踏まえたといっても、市民のほうでそういう捉え方がなかったら、なかなか前に進んでいかないと思うんですけど、その辺はどう捉えているんでしょうか。

和西企画部長 今のようなちょっと漠然とした質問をお伺いすると、どのようにお答えしていいかわからないので、具体的にどういう辺りかというのを言っていただけると、こちらも答弁しやすいと思います。よろしくお願ひします。

山田伸幸委員 いや、だから、市民の暮らしの中で人口減少によって市民生活に影響がどのように現れてきているのか。そういったものをどう捉えて

いるかとお聞きすれば答えられますか。

河田企画部次長兼企画課長 人口の関係は広報しておりますけれども、そのときの具体的な数値だけを見ても、市民の方はなかなか分かりづらいのかなというところもありますので、この辺り、周知の仕方というのは考えていかないといけないのかなと考えております。市民生活にどのような影響があるのかというところですが、これまで、それぞれの施策の中で、議員の皆様も地域のお声をお聞きになって、例えば一般質問等をされている事象ということで様々なものがあります。買物難民というところも対象となる商圈の顧客数の減少で、お店のない地域があるですとか、公共交通機関も、これは担い手となる運転士の確保の問題もありますが、やはり人口が減少していくことで路線の縮小や本数の減便もあるとかというところは、私どもも課題として考えておるところですし、地域の皆様におかれましても、生活の実体験として、人口減少による影響ではないかと考えておられるのではないかなと捉えております。

山田伸幸委員 人口減少を抑制させていく具体的な取組もしつつ、それを受け止めて、新しいまちづくりに向かっていくんだ、そのためには、地域の力が必要だという基本的な考え方だと思うんですけど、地域のほうでそれを受け止めて、自分たちで活性化させていこう、地域の力を発揮していこうという方向に向いていると考えておられるんでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長 そこがまさに2ページのところでも示されております関係人口というところと官民連携というところ。官民連携といいますと、いろいろな関わりを持っていただくということもありますけれども、例えば市内11校区におけるRMOの形成はまだ今からどんどん取組を進めていっていただくところですし、市でもサポートしていくところです。また、市内の人口だけではなくて、本市に関わりを持っていただく、ファンになっていただく、外から応援していただくという趣旨での関係人口の増加に取り組んでいく必要があると考えております。

藤谷圭子委員 横断的取組のところについてなんですけれども、中期までは三つで、今回、官民連携の推進というところがこの横断的取組に入っております。これ非常に大事なことだとは思いますが、中期は重点施策の中に入っておりました。その辺でこの横断的取組のほうに持ってきた意図というか狙いがあれば教えてください。

河田企画部次長兼企画課長 よく御確認いただきましてありがとうございます。まさにこちらが先ほどからのお話にもありました、人口減少の中で対応していくというところでの官民連携の推進です。以前は重点施策ですとか、具体的には6章立て32個ある基本施策のうち、効率的で効果的な行政運営というところの基本事業の一つとして掲げておりました。中期では、まずはこれに取り組んでいくところがありましたので、行政運営というところの事業として掲げております。これは御承知のようにAスクエア等、あるいはRMOで実際に取組を進めてまいります中で、一つの施策ではなくて、それぞれの施策の中で横断的に取り組んでいく、いずれの事業分野においてもこういった観点を持ってやっていこうというところがありますので、後期からは、あえて横断的取組の中で官民連携の推進を掲げさせていただいたという考え方です。

藤谷圭子委員 たしかに項目は一緒なんですけど、内容が一步進んでいるところがありましたので、今の御説明で十分理解できました。

山田伸幸委員 RMOのことが強調されて、地域でもいろいろな分野の団体が集まって、新しい地域づくりを着実に進めようとされています。私もそれに関わっていて、実際にどういったことが、その中で課題になっていくということかというと、なかなか出てきていないから、何をしたいのか分からないというのが今の率直な地域の状況だと思っております。市からこういったことに取り組んだらどうかといったような関わり方はしているのでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長　ありがとうございます。市と一緒に取り組んでいくというところで、地域の皆様に考えていただいていることは、大変心強く、ありがたいお話です。具体的には、地域のそれぞれの団体とどう関わっていくかということです。具体的なお話、市の困り事というか課題と、地域の方々との共有ですけれども、この辺りは具体的にそれぞれの基本施策の中で地域づくり、基本施策の11になろうかと思えますけれども、そういったところで、例えば市民活動推進課や社会教育課で地域の皆様と関わりを持って進めていきたいと考えております。

藤岡修美分科会長　四つの横断的取組のページで質問したいんですけど、一番目に「DX・GXの推進」とあります。GXっていうのは、このたび初めて出てきたと思うんですけど、グリーン・トランスフォーメーションですね。これは今までの説明の人口減少対策とはまた違ったレベルの話だと思うんですけども、これを取り入れられた理由があれば示してください。

河田企画部次長兼企画課長　これがまさに後期に入ってから新しい考え方といいますか、横断的な取組に持ってきたところですよ。GXは幅広い概念ですけれども、カーボンオフセットと申しまして、温暖化ガスの抑制というところもありますし、これは企業の活動に影響していくところもありますし、市民生活におきまして、廃棄物の量の減少といったような身近なところから取り組んでいくことができるというところがあります。ですので、環境課の施策ということだけではなく様々な分野で横断的に取り組んでいく必要があるということから、横断的な取組に掲げたという考え方です。

藤岡修美分科会長　これは各分科会で審査されると思うんですけど、GXの取組は、施策の中で結構出てきているんですか。

河田企画部次長兼企画課長 GXを掲げた部門がそれぞれの基本施策の中で大きく出てくるものと、濃淡というのは事業のそれぞれであると思いますけれども、やはりこれからの時代、環境問題への考え方の一つとして、廃棄物の量の減少はそれぞれの事業においても考えていくべきような内容であると考えています。

宮本政志委員 今の分科会長の質疑と答弁で、確かにそうよね。横断的取組のDX・GXで持続可能な地域経済の活性化を図りますって書いてあって、1ページ戻ると、下から2行目に、基本計画は、社会経済情勢の変化を踏まえて、前期、中期、後期、というように載っていますよね。だから2040だと。実は答弁が想像つくし、恐らく横断のDX・GXの推進が出てきたと思うんだけど、2040を前提にしてもいいから、後期の作成に向けて、これからの社会経済情勢をどのように変化を想定して方向性をどう結びつけたかをお聞きしていいですか。

河田企画部次長兼企画課長 DX・GX、世界的な社会的な流れですけれども、これはやはり人口減少といった考え方もあると思います。人口が減少していくことで、経済を支える働き場で労働人口が減っていくというところもあります。そうすると、どうしてもこれを補うためにDXの力を用いて、そこをカバーしていかないといけないというところが社会全体であるという中で、そういった動きを市として取り組んでいく必要もありますし、あわせてGXは環境問題の側面もあると思っています。持続的な経済活動を進めていく上で、カーボンオフセットに取り組んでいく必要があるという中、そして委員がおっしゃるように2040問題を進めていく中、さらに社会情勢がDX・GXを進めていくという中で、本市でも横断的に取り組む必要があることから加えたと御理解いただければと思います。

中岡英二委員 数多く施策があると思うんですけど、まずこの重点施策を最優先で行っていくんですよね。

河田企画部次長兼企画課長 この重点プロジェクトの三つの重点施策ですけれども、おっしゃるように、施策の中でもこの三つの柱を設定して重点的に進めていくものを掲げたと御理解いただければと思います。

中岡英二委員 当然、重点政策が優先されると思うんですが、その予算配分とかは、細かな数字はいいとして、どのように考えておられるか。大まかなことでいいですよ。

河田企画部次長兼企画課長 基本計画の下に実施計画があります。こちらは毎年度策定していくわけですけれども、考慮する上で重点に位置づけられているものは、ほかの事業と比べまして重点的にやっっていこうというところも配慮した上での計画を策定しております。そういったところで判断するということであって、金額については情勢に応じてということになろうかと思います。

中岡英二委員 戻っていいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）2ページ目、初めに会長が言われた、良いこと「W e l l」が起きることを待つのではなく、自分の意思「W i l l」の状況をつくるというように用語が使われて、少し理解しにくいところもあると思います。以前は、市民はサービスを受ける側だったけども、それだけでなく、市政をつくるパートナーとなるという考え方でよろしいでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長 おっしゃるとおりの御理解で大丈夫です。

中岡英二委員 ということは、やはりこういう用語を具体的に分かりやすく、市民の方に理解される方向性で考えていかれるのか、いやいやこのままでもいいよというお考えなのか。

和西企画部長 用語を使うときというのは、これから先、柱を表現するものと

してふさわしいものと思えば、どんどん使っていくことによって市民の中に浸透させていかなければいけないとっております。「スマイルシティ」をはじめ、いろいろな言葉があったと思いますし、「協創によるまちづくり」もそうだったと思うんですけど、やはり市としてこれをまちづくりの用語として端的に表すものとして使うに当たっては、どんどんPRしていくことが必要だと思っております。

中岡英二委員 今言われたように、このキーワードはすごく大事なところだと思うんですよね。思いが一番込められているところだと思うんですよ。人口減少はもうどんなに防いでも防ぎにくいと。その中で限られた財産の中で、市民がこういうのに参加してパートナー的なことをやっていくという考え方はすごくいいと思いますので、ぜひともこれを市民の方に広く広げていただきたいと思います。質疑じゃないけど、ごめん。

奥良秀委員 市長の考えが2ページに書いてありまして、私としたら、人口が減少していく中においては、経済規模が小さくなっていくのはもうしょうがないのかなと思っている中で、予算規模が今後どうなっていくかが見えないので、どのようなお考えがあるのかを聞きます。

河田企画部次長兼企画課長 やはり人口が減少していきますと、税収も当然少なくなっていくと考えなければなりません。一方で、高齢化が進み、扶助費と歳出が増えていきますので、こういったところを進めていくというところも大変重要ですけども、歳入に見合った歳出を考えていくことが必要です。その辺りはしっかりとした財政が必要になっていくと考えておりますので、長期的な計画が必要という観点から、このような計画を策定して進めていっておると御理解いただければと思います。

奥良秀委員 7ページのところの四つの横断的取組というところで、DXの推進が、まさに予算における人件費のところに入ってくるのかなと思っています。DXのところは基本施策の中でもありますので、それはそちら

のほうでやってもらったらいいと思います。基本的な考えで、職員数がたしかこの中には書いていなかったと思うので、どのようなお考えがあるのか、答弁願えますか。

古川副市長 DXを導入したら職員数がどうなるかということが、よく話題になります。これは行財政改革のときの1丁目1番地と考えるんですが、今、行政は多様なニーズ、また、いろいろな世代のニーズによって業務量が増えているのは確かです。したがって、DXを入れたからといって、すぐに職員数がどうのこうのということにはならないと思います。しかしながら、人事は定員適正化計画なるものを策定しておりますので、それを着実に執行していくことになろうかと思えます。当然、窓口業務につきましても、全部DX化されたら職員の手はそれなりにかからないようになってくるとも思いますが、今はまだ過渡期ですので、DXとなったからすぐどうなるとは、なかなか言えない状況です。特に本市はまだそうでもないですが、小さな町になりますと、採用職員の採用がままならないところもあります。そうした中におきまして、やはりこのDX・GXの推進というのは、今、奥委員が言われたような職員の働き方にも当然関わってきますので、この推移というか進捗状況、またそれによって業務量の増減も図る中で、適正なる定員適正化を図ってきたいと考えます。

宮本政志委員 今、副市長の答弁、非常に分かりやすいですよ。でね、さっき自治基本条例との整合性の件を少しお聞きしましたよね。そうすると、今の副市長の答弁からすると、この後期基本計画は総仕上げっていうふうに、何ページ目かの冒頭に書いていますよね。市の組織及び体制ってあるよね、自治基本条例に。これを読みといて解説をよく見ると、市民に分かりやすい組織っていう前提があって、どのような組織体制が市民に有益で機動的なものであるかっていうところを自治基本条例第14条でしっかりと盛り込んでいますよ。この後期基本計画は当然整合性が取れていますよ。今の副市長の答弁も踏まえると、この総仕上げの後期基

本計画に、今の組織体制が市民に有益で機能的なものっていうところってというのは、何か分かるところがありますか。これは、個別のほうも皆、目を通したけど、今の答弁は分かるんよ。だからDX云々が出てきた。でも、ここが全く分かんなかったんですよ。感じられなかったっていうと少し失礼かもしれないけど。

古川副市長 組織というのは、事業体の形を一番表すものだと考えております。今、本市では7部1教育委員会の体制を取っておりますが、7部にして総務、企画、市民という分かりやすい名前をつけておりますし、今、宮本委員が言われたように、今、うちの組織の中で整理しているのは、窓口お悔やみ、窓口の一本化とかそういうようなのを組織として考えておりますし、あくまでも市民に分かりやすい組織ということを心がけております。よくありますのが「すぐやる課」といったような名前をつけておる市がありますが、本市としては、シンプルで市民の方がこういう業務はここに行ったら対応していただけるなって分かるのがまず一つと、やはり横断的な業務といいますか、1回来たらスムーズに回れるというような組織体制をできる限りつくっていく必要があると思いますし、また、何かに特化した場合は、ワーキンググループとかプロジェクトとかをつくって当然対応していくということで、二つぐらいありまして、平時のときとか何もないときは、今のようないいと思うんですが、有事とかこれに特化しなくてはいけないというときにはすぐ迅速にプロジェクトとか特別な室をつくるかとかというような形で、対応は迅速かつスピーディーに進めていくというのが今の考え方です。そうした中で、市民の皆様からここが分かりづらいという御意見があれば、それは速やかに対応させていただきたいと考えております。

宮本政志委員 そうそう、さっき僕が河田次長にお聞きした質疑が、もう少し詳細を言えばよかったなと思って。今の答弁のところは分かるんです。僕は後期基本計画を読んで、今の組織体制が市民に有益で機能的なものであるという前提が、今度、市の職員からの考え方とか意見とか提案と

かっていうものが、そこまでさっき言えばよかったね。それが反映されているところが感じられなかったわけよ。だから、この総仕上げの後期基本計画に方向性としてどうやって反映させてこの計画の案の策定にこぎ着けたのかなと思って。さっきの副市長の答弁は、確かに市民の意見とか議会の意見とか外的な要因とかからの答弁だと思うんよね。職員の方の提案意見というのは、反映が見えなかったから、そこが見えなかったってさっき言いました。もう少し詳細を言えばよかったね。

古川副市長 当然職員からの意見も吸い上げております。人事課は人事ヒアリングを部長なり課長なりとしております。そうした中で、その部署のいい点、今ちょっと問題になっている点を全部吸い上げておりますので、それを踏まえて組織体制をどうするか。また人事の配置、また今後の業務量等々の調整をしております。人事ヒアリングの中で、その部署をどうしたらいいかというのは当然吸い上げております。それを受けた中で今の体制ということで御理解いただけたらと思います。

山田伸幸委員 先ほど協創によるまちづくりとかスマイルシティとかの市民への浸透が進んだような表現を聞いたんですけれど、本当にそうなんかなと。日頃から地域のいろいろな会議に出ても、市民からそういう言葉が出てきていないんですよね。ですから、その辺では行政が思っているのと市民とで乖離があるんじゃないかなと思うんですけど、その辺はどういう考えをお持ちでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長 委員のおっしゃるとおり、職員のほうでは理解がある程度進んでおるところもありますけれども、市民の方々に総合計画の内容が確実に行き渡っているかということもありますし、日々の業務の関わりがある中で、お伝えできることを少しずつお伝えしていつて、考え方を広げていくというようなところは課題としてあると考えておりますので、後期におきましても引き続き進めてまいりたいと考えて

おります。

山田伸幸委員 では、職員の中に、中期計画、後期計画の考え方っていうのはもう徹底されているんでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長 この計画を策定するに当たりまして、概要説明のときに少し御説明させていただきましたが、各課の課長が幹事会の幹事となりまして、策定に当たった取組を進めてまいりました。各課の課長は、課の中でこの計画の策定に向けて課の中の課題や振り返り、それからあるべき姿、目標等を検討してまいりました。そういった中で、それぞれ職員のほうで後期基本計画に向けた取組についても理解が進んでおると考えております。

山田伸幸委員 よく職員の口から出てくるのが、自分の部署のことは分かるけれど、ほかのことは分からないと。やはり、こういう基本的な計画は、それを進める側である行政職員の皆さんの理解がないと、進めようにも進められなくなるんじゃないかなと。自分の部署だけは頑張りますけどほかは知らないよっていうのは、少し間違ったやり方ではないかなと思うんですけど、その辺いかがですか。

古川副市長 今この後期基本計画の作成に向けて、ボトムアップでどのような形をつくってくるというのは、河田から説明のあったとおりです。幹事会で課長等が協議し、市長を頭として部長級で組織する推進本部で煮詰めてこのような形になっております。そうした中で、やはり山田委員が言われたことはいい指摘であると私どもも考えておりまして、この総合計画については、庁議等々でもきちんと指示しております。今後、課長それから課長以下、一般職員に対しても後期基本計画の在り方、この後期基本計画に基づいて山陽小野田市がどのようなまちづくりをしていくかというのは、職員研修を通して下ろしていきたいと考えます。

宮本政志委員 二つよく分かんなかったことがあった。シビックプライドは、もともと藤田市長が掲げられてどんどん進んでいるんだけど、この部分と、それから魅力あふれるまちの文化スポーツの振興って、ここに出ているのはみんな新しい文化なんよね、僕から言わせたら。ガラスとかレノファとかパラサイクリングとか。でも、旧小野田市にしても旧山陽町にしても、ものすごい歴史や文化をもともと持っていたよね。この古い歴史文化を継承していかないといけない。そこをシビックプライドとどう結びつけていくのかな。方向性が分からなかったうちの二つ目なんです。スマイルプランナー制度が云々の答弁はいいよ。古い文化や歴史等が全体的に出てこない。これは中期もそうやったんよ。その方向性がよく分かんない。それで本当シビックプライドの醸成が図れるのかなと思うんで、方向性をお聞きします。

河田企画部次長兼企画課長 実は、第二次総合計画を当初策定してまいります際に、山陽小野田市の将来都市像を定めます中で、読み上げさせていただきますと、「歴史、産業、教育、文化、自然、スポーツといった地域資源など本市の特性を最大限に生かしながら」といったくだりがあります。この第二次総合計画を当初策定する際に、シビックプライドに関わるような本市の昔からあるものやいいものを活用しながら進めていこうというところは、大前提としてあると御理解いただければと思いますし、後期におきましても、魅力あふれるまちという中で、地域資源を磨き上げて魅力を高めるとともに認知度向上と観光交流の振興といった、一部の取上げですけど、基本的には大きなベースがあってというところで御理解いただければと思います。

山田伸幸委員 今の話で、残念ながら私の率直な意見は、古いものや地域の本当がいいものは置き去りにして、前のめりになって自分たちが新たに取り組んでいくものに邁進しているとしか受け止められないんですよ。というのは、やはり地域のものを地域の人たちだけに任せ切りにしているんじゃないかなと。地域の会議に出ておると、市の関わり方が非常に弱

いんじゃないかをつくづく感じるんですよ。先ほど宮本委員からあったように歴史を大切にする、そして地域資源を大切にしている人たちの意見もしっかり取り入れたものが欠けてきているんじゃないかなと思いますか。

河田企画部次長兼企画課長　やはり地域の伝統文化、歴史といったところの取組というのも重要であると認識しておりまして、個別的なお話になりますけれども、例えば、計画の中で基本施策の30のところ、芸術文化によるまちづくりの推進といったところの施策もあります。この中で、地域の文化活動の担い手に関係する課題ですとか、文化財の良好な状態に保つですとか、それから施設整備ですとか、活用していくことですとか、そういったところも課題ということで具体的に基本施策の中で取り上げているというところで御理解いただければと思います。

宮本政志委員　すみません、分科会長、少し気をつけていただきたい。僕はさっき、方向性としてシビックプライドの醸成ということがあったから、新しい文化と古い文化ということで、古い文化のほうの方向性が感じられないということをお聞きしただけで、別に個別のことはまたそのうち予算補正、事業が、いつの定例会か知らんけど議案として出てくるから、あまりそっちの細かいほうに行ってもあれなんで。（「了解です」と呼ぶ者あり）その辺は少し気をつけてもらったほうがいいと思います。

藤岡修美分科会長　ちょっと1時間たちましたので、換気のため暫時休憩いたします。

午前9時57分　休憩

午前10時8分　再開

藤岡修美分科会長　それでは、分科会を再開いたします。ざっと質疑を受けま

したが、少し整理するために、重点施策ごとにもう一度見ていただいて質疑を求めたいと思います。重点施策1、活力あふれるまち、1として安全安心なまちづくり、2として地域経済の活力増進。

山田伸幸委員 今、重点施策1、活力あふれるまちのところはこれまでも一般質問でも取り上げてきたことなんですけれど、特に安全安心なまちづくりというのは、国も早急に取り組みと言っているし、国もそれなりの予算をつけていると。しかしながら、市が国の予算に対して及び腰になっているんじゃないかなというのを6月議会、9月議会とやってきたんです。その辺はどうなんですかね。市全体で、国が示している予算があるのに、それを取りに行くといった検討をきちんとしているんですかね。

河田企画部次長兼企画課長 もちろん、有利な財源というところで国からも示されておるところでございまして、そういったものは最大限に活用すると考えています。しかしながら、国の補助がつきましても、例えば補助率が2分の1というものがあると、当然残り半分は市で負担する必要があるので、財源の確保も考えながら、事業に取り組んでいかなければならない事情があるのも事実です。

山田伸幸委員 安全をどのように考えるかということもやっぱり検討していかなくちゃいけないと思うんですよ。避難所だけがあっても、その避難所に行く道すがらがどうかということも検討していかないと、避難所に行く途中にあったブロック塀がどんどん倒れるようでは、とてもじゃないけど安全なまちと言えないんですよ。総合的にその地域、これを「市がやれ」って言ったって市もなかなかやりにくい。じゃあ地域に任せるかといっても、地域も高齢化が進んでいてなかなか機動的にできないのが現状だと思うんです。その点を踏まえて、市はどのような安全なまちづくりに取り組もうとしているのか。この中ではちょっと読み取れないんですけれど、いかがでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長 これもそれぞれの基本施策の中で取り組んでいくところですが、質問が多かった防災面から具体例を少しお答えさせていただきますと、委員からのお話しにもありました市側の役割と地域の皆様の役割分担ではないかと考えておりますので、自助・共助・公助の考え方を進めていくと。その中で、もちろん市では公助というところがあります。けれども、やはり、災害発生直後には自助・共助が大変重要ですので、こういったところの取組が進むように担当課で出前講座を開催したりとか、地域の防災訓練に出向いて一緒になって訓練実施したりとか、あるいはその場でアドバイスをしたりとかという形で取組を進めているという考え方です。

山田伸幸委員 それは災害が起きた後のことを言っておられると思うんですけど、私が言ったのは、災害が起きる前の準備のことです。それができていないと、災害が起きた後のことは機能しないわけです。だから、市がそんな災害が起きても大丈夫なようなまちづくりのことを本当に考えているのかをお聞きしています。

河田企画部次長兼企画課長 もちろんハード面での整備もありますけれども、具体的に全てを一度に整備というのはなかなか難しいという現実も踏まえながら、地域の方々が避難経路を実際に歩いてみて確認していただくという取組も進めていただいております。そういったところに出前講座ということ絡めて関わらせていただくところもあります。災害の種類に応じて、例えば大雨の場合には冠水するルートはここだから別のルートを考えようとか、やはり御指摘にありましたブロック塀があって倒壊の危険があるといった地震災害のようなもの場合には、このルートは危ないから代替ルートでどういうものがあるかとかといったところも、実際にまち歩きをしていただいて日頃から避難ルートを考えていただくというようなことを、担当課が一緒になって取り組んでいっております。

奥良秀委員 今、言われたまち歩きって、防災士がやられているものであって、市が本来しなくてはいけないものではないのではないかと思います。あたかも市がやっているような言い方をされていましたが、それはちょっと違うんじゃないかと思うんですが、いかがですかね。

河田企画部次長兼企画課長 地域の方々に御協力いただいて、奥委員がおっしゃったように地域の防災士にも御協力いただきながら、地域で取り組んでいただいている事例ということで御紹介させていただきました。

恒松恵子副分科会長 安全安心なまちづくりといいますと、一般的には防災とか自主防犯とか子供の安全を守るとかバリアフリー化とか犯罪防止とかが浮かぶんですが、この中では空き家対策に非常に重点が置かれています。市において安全安心なまちづくりの最大の課題は、今は空き家対策というお考えなんではないでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長 副会長がおっしゃったとおり、安全安心に対する課題は様々な種類があって、もちろんそれぞれについて取り組んでいくのは当然です。その中で一つ空き家等がここに挙がっておるのは、空き家の対策、管理不全空き家、危険の除去というところもありますが、利活用可能なものを活用していくというところに少し違いがありますので、そういったものの活用も含めて改善を進めていくというところが活力あふれるまちにつながるというところで、少し特出しさせていただいたということです。

山田伸幸委員 それと地域経済の活力推進のところですか。誘致を行うとされているんですけど、そのようなスペースは存在しているんですか。

河田企画部次長兼企画課長 企業誘致で、先ほど小野田・楠企業団地において市が有しておるところの区画が完売したというお話もありました。今後はそういった企業団地、大きな工場を誘致するというところから、これ

もそれぞれの基本施策の中で担当課が検討しておるところですけれども、もう少しコンパクトな企業様の立地を考えておりまして、従来型のたくさんの方の従業員が工場で働かれるというようなものではなくて、担当課で考えておるのは、スモールオフィスであると御紹介させていただきます。

宮本政志委員 分科会長、また言うけど、気をつけないと。大局的な方向性を前提にいかないといけないね。市内に企業誘致するところがあるんですかとか、今後その計画をどうするんですかとかは。個別的なことは、さらに先のことなんで、分科会長は運営に少し気をつけてください。

藤岡修美分科会長 宮本委員から指摘がありました。総括的な質問で。

穂本真一委員 重点プロジェクト、活力、笑顔、魅力とこの順番なんですけど、これは意味があるというか、それとあとその後においての……（「質問は一つでお願いします」と呼ぶ者あり）意味があるのでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長 こちらの重点に掲げております三つの「まち」ですね。これは5月の市議会臨時会で市長が施政方針で掲げたものですが、この基になるもの、市長の選挙公約にまで遡るところです。この中で、活力、笑顔、魅力というところの重点施策を掲げておるところですが、これはつまるところ全ては、将来都市像である「活力と笑顔あふれるまち、スマイルシティ山陽小野田」の実現に向けて、重点を進めていくという考え方から成り立っていると御理解いただければと思います。

穂本真一委員 それでは順番はそんな意味がないというか。

河田企画部次長兼企画課長 キャッチフレーズが、将来都市像、活力と笑顔あふれるまちというところがありまして、その流れで活力、笑顔、魅力というふうに考え方があります。少し先の2と3にも触れさせていただきますけれども、活力というのが生活の基礎的な部分を支えるものである

こと、二つ目の笑顔あふれるまちが地域づくりであること、三つ目の魅力あふれるまちというのがシビックプライドの醸成につながるようなものであるといったところの並びを考慮されておると御理解いただければと思います。

穂本真一委員 もう一ついいですか。（「はいどうぞ」と呼ぶ者あり）その重点施策の順番と今度は基本施策の順番はリンクしているものなんですか。

河田企画部次長兼企画課長 8ページ以降の施策体系にあります中の基本施策は直接のリンクというのはありませんで、実は分野別計画の章立てというのは、こちらで第二次総合計画を策定した際の当初、進めてまいります中で、課題の検討を行いました。お持ちの方がいらっしゃいましたら、中期のほうでは30ページ以降になります。2章のところ、市民意見の総括というところの中で、五つの分野に分けた意見、それから課題というところをまとめております。これに六つ目の行財政運営というところを加えて、六つの章の柱立てを行ったという流れがあります。そういった経緯がありますので、この重点の組立てと分野別計画の柱立てというのは少し異なっていると御理解いただければと思います。

藤岡修美分科会長 ほかに重点施策1は大丈夫ですか。（「なし」と呼ぶ者あり）それでは、重点施策2、笑顔あふれるまち、一番目に地域づくりの推進、二番目に子育て支援、学びの充実とあります。これに関連して質疑はありますか。総括的にお願いします。

山田伸幸委員 地域づくりのことは先ほどからこだわっているように言っているんですけど、やはり地域課題の解決に向けた取組、地域の特色、これは行政では見えないところだと思うんですね。しかしながら、高い視点から市全体を見て、こういう地域のこういう特色があるという色分け地図というのをしていかなくちやいけないと思うんですけど、そういった

観点で地域づくりを市は見ているのでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長　こちらのほうも第二次総合計画基本構想部分になりますけれども、山陽小野田市の将来像ということで、お持ちの方は、45ページを御覧いただければと思います。都市構想図として大まかなゾーニングです。都市計画法に基づく用途地域といったことではありませんで、大まかにこういった都市の方向性を進めていこうという考え方を持っておると御理解いただければと思います。

山田伸幸委員　二つ目の子育て支援、学び、要するに山陽小野田市の将来に関わるものだと思うんですけど、その辺で今の山陽小野田市の取組というのがこういった観点でやられているのかどうなのか、その点足りていないから新たにこれをやっていくのか、どういった考え方なんでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長　こちらで掲げております子育て支援、学びの充実については、これまでも取り組んでまいりましたけれども、引き続き、この充実に向けて進めていくというところを表したものです。

山田伸幸委員　であれば、こういったことを進めていけば、やっぱり子育てをしておられる方々がこの方向で理解もされ、そして、充実も進んでいくと考えているということによろしいでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長　そのように受け止めていただけるように進めてまいりたいと考えております。

藤岡修美分科会長　ほかに質疑はありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）重点施策3、魅力あふれるまち、1文化スポーツの振興、2魅力の発信について質疑はありますか。

山田伸幸委員　この文化スポーツの振興はそれぞれがそれぞれで成り立ってい

て、それを網羅的にただ書いているだけのようには受け止めていないんですけれど、やはりそれが市民に与える影響といたしますか、それらの進行が、市民にどう受け止められているかというのもしっかりと把握されたということによろしいのでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長 こちらのほうも文化スポーツの振興ということで、文化芸術に関しては、文化芸術振興ビジョン、スポーツに関してはスポーツ推進計画を担当課が持っておりますので、そちらも勘案しながら施策の充実に努めてまいりたいと考えております。

山田伸幸委員 特にこういった分野というのは、交流人口の増に大いに貢献するものだと思うんですけれど、空回りしているとしか見えない部分が多いですよ。その点ではしっかりとつかみ切れているのでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長 御指摘のとおり、事業実施に苦勞しておるところもあるかと思えます。そういったところの事業の評価もしっかり含めながら、また関係する方々とも担当課が日頃から御意見を頂戴しながら、効率的かつ効果的な事業推進に努めてまいりたいと考えております。

山田伸幸委員 この最後のところで、市民の芸術文化スポーツ活動の推進に取り組まますと網羅的に書いているわけですが、細かく見ていくと、特定の人たちだけの問題で、市民全体のものになっていないと思うんですけど、その点いかがでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長 市民の皆様全体にというところでは、芸術文化を体験していただく、見ていただくというような取組も進めておりますし、スポーツに関しましては、競技だけではなく生涯スポーツとして健康づくりの観点から取り組んでいただくといったところも、それぞれ文化芸術振興ビジョンやスポーツ推進計画の中で課題として考えておりますので、進めることで推進につながると考えております。

山田伸幸委員 その次の魅力の発信です。暮らしやすい住環境、そして豊かな自然、こういったものが本当に市民の中で実感として受け止められているというふうに——何かこういう支障があってここに記述として表れているのでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長 こちらも第二次総合計画を策定する際のアンケートの結果からで、満足度として「住みよい」と感じておられる市民の方もいらっしゃるというところがあります。気候の面でも交通の便でも、比較的住みやすいという評価を頂いており、移住定住を進めていく中で、生活をする上での住みよさをPRしていくことで促進につなげていきたいと考えております。

山田伸幸委員 一方で、市民として、大学生なんかは数年間住んでいても、それが実感できていないんじゃないかなと思わざるを得ないんですが、いかがでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長 こちらの住みよさ、この受け止め方は人によって考え方が異なると思います。やはり長く生活されていると、そのよさが分かってくるというところもあります。例えば、他の市町から転入されたような大学生の方ですと、短期的な生活をする中でこういったところが足りないとか、学生の方だったら余暇の時間を過ごすところが都市部と比較して足りないとかというようなお考えもあるかと思えます。その辺りなかなか全ての御要望にお答えするというところも難しいかと思いますが、住みよさというところを地域資源として磨き上げてというような記述もあるように、これがシビックプライドにもつながるのかなと考えておりますので、市のよさを市の内外に周知していくことに取り組んでまいりたいと考えております。

山田伸幸委員 私もよくいろいろなところに出かけるんですけど、地域資源を

磨き上げてというのは確かに大事なんですね。本当に整っているところに入ってというのは行きやすいんですね。ところが、せっかく市の魅力として大々的にPRしているのに周辺環境の悪さから評判を落とすということが実際に起きているんですよね。その辺の改善になかなか踏み出せないのは、ただ単に予算の問題だけとして片づけていいんでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長　こちらはその魅力である対象のものそれぞれにいろいろ事情があると考えております。やはり予算面の制約というのもありますけれども、周辺環境といったいろいろな事情があつてということも御理解いただければと思います。

藤岡修美分科会長　重点施策3、ほかにはよろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）それでは四つの横断的取組に入ります。先ほど来、質疑がありましたけれども、何かあれば。

山田伸幸委員　デジタルの力というんでしょうかね。やっぱり人々が日常生活だけじゃなくてよそから来る人も含めて、山陽小野田市の情報が得やすい状況となっているのかですね。例えば観光地に行ってその観光情報を改めて確認しようにも、電波が届かないと、そうはならないわけですよ。まだまだこの辺での取組には課題があるんじゃないかなと思うんですけど、どういった課題を考えておられるんでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長　おっしゃるとおり、観光面一つ取りましても、様々な課題があり、観光資源があるところで携帯電話の電波環境が悪いというところがそうです。これを市だけでというところがあり、関係する事業者への働きかけ、そのほかにも様々な課題があるのは承知しておりますので、それぞれ担当しております部署で、改善に向けた取組をできるところから進めてまいりたいと考えております。

山田伸幸委員　特に今年、私も実際に出会ったんですけど、外国から日本に来

られたときに情報を得られないということで困っておられたんです。その辺の対策は今後考えていかれるのでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長 外国からお越しいただいた方で、観光でいらっしゃる方ももちろんですし、滞在していらっしゃる方への対策も大変必要であると考えております。県でも、観光連盟が外国人に向けたサイトや情報提供、翻訳サービスといったものを提供されていますけれども、それを使っていただく上で、先ほどお話にもありました電波環境といったところも課題ではないかと考えております。

藤岡修美分科会長 ほかに質疑はよろしいですか。（「ありません」と呼ぶ者あり）それでは質疑を終わり……（発言する者あり）そうか。ほかにありませんか。

藤谷圭子委員 横断的取組とかではなくて別のことですがよろしいですか。

（「どうぞ」と呼ぶ者あり）これを策定されるに当たって中期までの評価というか、検証をされたと思うんですが、その方法として、市民に係るもので二つ、市民のアンケートとパブリックコメントから評価をされていると思うんです。以前の御説明の中で少し気になったのがこのアンケートです。内容的には比較検討しないといけないので、項目としては変えることはできないと思うんですが、回収率がアンケートとしてはちょっと低いかと非常に気になったところです。アンケートは、もちろん回収された数も大事なんですけど、回収率のほうが信頼性、信憑性を問うときには非常に大事だなと思っています。今までもその辺のところが出たようにちょっと記憶しています。ウェブでの回収が増えていると思うんで、その辺は非常に評価できる場所だなと思うんですが、今後に向けて、この回収率を上げるためにというところと、やはり先ほどから共につくる共生というところでは市民の意見も大切だと思います。そこで、1点目はアンケートの回収率を上げるための取組、2点目がパブリックコメントで、私がホームページで調べたところによると、お1

人から22件ということでしたので、市民とともにという視点からすると、もっと多くの方の御意見が頂けるように取り組んでいただけないのかなと思っておりますが、その辺はいかがでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長 御指摘のとおり、アンケートの回収率の向上には苦慮しておるところです。ウェブの回答を取り入れまして、全体としては回収率が少しよくなったところもありますけれども、御負担にならず、より多くの方に御回答いただけるように、今後は公式LINE等も活用して、もっと気軽な御意見を頂く手法も検討してまいる必要があると考えております。回収数による回答の信憑性といいますか、確度の問題では、983件あることから、一応、統計学的には信憑性には大きな問題はないと考えておりますけれども、概要説明でも少し申し上げましたように、年齢層の高い方の回答率が高いので、若い方の意見をどう取り上げていくかというのが課題であると考えております。そういったところもありまして、山口東京理科大学工学部と薬学部から学生を御推薦いただきまして、後期基本計画協議会という外部委員を加えて検討していただく会議の中に入れていただいたというところもあります。2点目のパブリックコメントです。ホームページで見ていただいてありがとうございます。お1人の方から22件というところでは、本市のパブリックコメントの全体的な傾向を見ますと、やはり御回答いただける数が低調であるのが課題で、どうしても同じような方からの御意見になるという傾向もあります。なかなかパブリックコメントは敷居が高いと捉えていらっしゃる方もまだまだ少なくないかなと思っておりますので、こちらのほうの制度の周知も含めて、市民の皆様から御意見を頂く機会として、広くお伝えしていく必要があるかなと考えております。

奥良秀委員 7ページのところの四つの基本的取組のところもいいんですかね。

(「はいどうぞ」と呼ぶ者あり) 官民連携の推進というところで、公共施設の最適化に活用するという文言は、今から人口が減少していく中で、建物等々も維持管理しながら縮小を考えていく方向にかじを切ると考え

てよろしいのでしょうか。

和西企画部長 委員の御指摘のとおりで、縮小というよりも、縮重という言葉がありまして、縮小しつつ、そこを利活用していくという考え方です。ただし、それは行政の従来の手法では無理ですので、やはり民間のお力を頂きながら、様々な手法からケースに応じた手法でどんどん進めていきたいと考えておるところです。

奥良秀委員 手法ということで、また議案等々が出たときには、そこで審査をしていけばいいのかなと思っています。それと先ほど藤谷委員から出ましたアンケートとパブリックコメントはいいんですが、後期基本計画をつくる際には、協議体のようなものもつくられて、先ほど言われた理科大生も入られてお話をされているとは思いますが、まずは理科大生のことを聞きます。理科大生は個人の御意見でしょうか、それとも理科大のサークルなどで話し合われた意見を出されているのでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長 基本的には学生ですので、他の団体と異なりまして個人的な御意見を頂戴したというのが率直なところですが、御意見を頂くに当たりまして、周辺のほかのお友達といいますか、学生の皆さんとお話し合い等はされたと理解しております。

奥良秀委員 理解されたということですので、私も理解しようと思います。それと、各種団体っていうところがあります。いろいろな団体の方たちが来られているとは思いますが、その方たちも次長が言われたような個人の意見ではなくて、きちんとその団体の中で意見集約されたものが出されているのでしょうか。

河田企画部次長兼企画課長 こちらも団体がいろいろありまして、自治会連合会、女性団体連絡協議会、PTA連合会、社会福祉協議会、商工会議所、農業協同組合、山口東京理科大学、山口銀行、連合山口西部地協、宇部

日報社、青年会議所、そのほか先ほどの理科大生とか、公募の市民が個人で3名が応募されて委員になっていただいております。個人的な意見をお出しいただくような委員の方もいらっしゃいますし、団体の会長様とか副会長様とか支店長様とかといった立場の方にも、御参加いただいているというところですので、団体の属性に応じて団体全体の意見を集約されてというところもおありかと思えますし、個人的な御意見を御提案いただいたというところもあろうかと思えます。

奥良秀委員 今の話を聞くと、総合的に、基本的に、まとめたものを本当にやっているかどうかというのはもう想像の域だけですよね。ということで、やはり協議体の中で話す際には、選ばれる委員も今後はもう少し考えられて、団体の総意がきちんとここに上げてこられるようにしたほうがいいんじゃないかと思うんですが、いかがですか。

河田企画部次長兼企画課長 私どもは各団体をお願いする立場ですので、なかなかどういった方をというところを言いづらいところですが、団体をお願いするので、やはり団体の御意見を頂戴したいということはお伝えしていく必要があるかなと考えております。

藤岡修美分科会長 ほかに質疑はありますか。（「ありません」と呼ぶ者あり）
では、以上で質疑を終わります。それでは、総合計画審査特別委員会重点プロジェクト分科会を散会します。お疲れさまでした。

午前10時43分 散会

令和7年（2025年）11月10日

総合計画審査特別委員会重点プロジェクト分科会長 藤岡修美